

もりおか

広報

2017

10月15日号 (No.1467)

◆主な内容◆ (平成29年10月15日号)

原敬関連事業、農業まつり、都南図書館コンサート、看護師募集、盛岡駅前自転車駐車場の愛称決定、容器包装削減&エコライフイベント	2～3ページ
各種講座情報	4～5ページ
健康ガイド、子育て情報ひろば「カダッテ」、市営住宅入居者募集	6～7ページ
マイナポータルほか	8～9ページ
玉山地域づくり大会	10ページ



SIDE-Bでつなぐ 人・まち・バス



旧盛岡バスセンター敷地の一部、地域活用ゾーン「SIDE-B」のお披露目イベント「ワクワクあり^{マス}。はじめましてSIDE-B祭り」が9月21日から23日まで中ノ橋通の現地で開かれました。主催は、肴町や八幡町など河南地区でまちづくりを推進する7団体がタッグを組んだ「盛岡バスセンターおよび周辺地区活性化協議会」（豊岡卓司^{たくし}会長）。河南地区のにぎわいを生み出す新たな拠点として完成を祝い、地ビールやワイン、海鮮料理の地元飲食店など7ブースが出店し、3日間で延べ約3千人が来場しました。

河南地区のシンボルだった盛岡バスセンターが解体されてさら地となり、見た目の寂しさだけでなく、地域の力も落ちていくのでは、といった周囲の不安な声に危機感を覚えたという佐々木大さん（43）＝写真＝は当時、盛岡市肴町商店街振興組合青年部の会長。周辺団体と危機感を共有し同協議会を組織し、「何も無い」を逆手に、次への可能性や期待を抱かせる場所にしようと、勉強会や意見交換会などを通じてゾーン活用のコンセプトを固めました。



今年6月、市から敷地を借り受けると、安全フェンスの敷設や電気・水道工事、手作りベンチの設置など整備のけん引役として奔走。「たくさんの人の支えやつながりがあって完成にこぎ着けた。祭りではその喜びを協力してくれたみんなと分かち合った」と振り返ります。

愛称「SIDE-B」の直訳は「B側」。BはバスやBESTなどの頭文字を引用したほか、

レコードのB面から連想される「味わい深さ」や「特徴的で面白い」という、河南地区のまちづくりへの根底に流れる思いも込めています。「この場所での多様な体験を通して、自分もまちづくりに関わりたいという気持ちが多くの人に芽生えれば、新たな施設が出来てからの活動にもつながる」と先を見据え、地域の底力が根付くことを期待しています。

地域活用ゾーン「SIDE-B」

昨年9月に営業を終えて解体された旧盛岡バスセンター敷地を市が取得。その一部・約1千平方^{メートル}の敷地を地域活用ゾーンとして、新施設着工までの約2年間「盛岡バスセンターおよび周辺地区活性化協議会」へ無償貸与している。同協議会がゾーンの愛称を「SIDE-B」とし安全性・利便性を高めて整備し、イベント用地として貸し出すほか、市民が憩える広場として開放する。【広報ID】1020462

(SIDE-Bの借用などについて詳しくは、^{ジー・プラス} ㈱g・plus ☎651-6605へどうぞ)

